

## 第17回 特別講演会

# 世界の発光生物とその科学

大場裕一先生（名古屋大学大学院生命農学研究科）

発光する生き物は、ホタルやホタルイカだけではありません。地球上には、陸上から深海まで、およそ数万種類の発光生物がいて考えられています。しかも、意外と身近なところにも発光生物はひっそりいるのです。まずは、みなさんの家の庭にもいるかもしれない「ホタルミミズ」から、アマゾンの奥地で最近発見された光るゴキブリ（本当?!）まで、私が実際に見てきたエピソードも交えながら、世界のいろいろな発光生物を紹介します。

発光生物の光の役割はなんでしょう？ホタルはまずい味がします。でもホタルイカはおいしいです。味が関係あるのでしょうか。ホタルミミズは刺激すると光りますが、発光キノコは一日中光りっぱなしです。私たちの目でギリギリ見えるほど弱く光る生きものもいます。光の色は、青、緑、黄色、オレンジ、赤までさまざまです。ホタルのサナギは、頭が緑色に、おしりが黄色に光ります。色のちがいに意味はあるのでしょうか？こうした、発光生物の光る意義についても説明しましょう。

では、発光生物はどんな仕組みで光っているのでしょうか？電球とちがって、なぜホタルのおしりを触っても熱くないのでしょうか。また、どうして光るようになったのでしょうか？祖先は光っていなかったはずなのに、進化の途中で何が起こったのでしょうか？お話の最後では、私が専門としている、発光の化学的メカニズムや、遺伝子解析から分かってきた発光生物の進化プロセスについて、その最新研究成果も分かりやすく解説します。

発光生物は、科学の謎や疑問にあふれています。発光生物の不思議を通して、科学の探求法やその面白さについてもお話しできればと思います。

・開催日時：平成25年12月23日（月）13:00～14:30

・場 所：豊田ホタルの里ミュージアム 多目的ホール

・受講料：無料

・申し込み：電話・FAX・E-mailにてお申し込みください。

豊田ホタルの里ミュージアム

電話：083-767-0350 FAX：083-767-0355

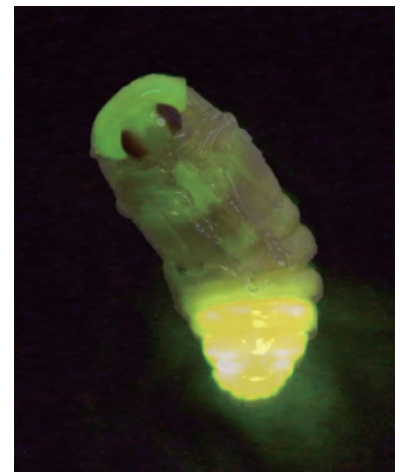
E-mail：kittsomu@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

※FAXでお申し込みの方は下記フォームにご記入いただき、

このままFAXしてください。

・申込締切：定員になり次第締め切らせていただきます。

・定 員：40名



▲ハイケボタルの蛹の発光

豊田ホタルの里ミュージアム 行

FAX：083-767-0355

第17回「豊田ホタルの里ミュージアム特別講演会」参加申込書

(ふりがな)  
氏名

電話

(ふりがな)

住所（〒 - ）